



気がつけば季節は初夏になり、紫外線の気になる季節になりました。紫外線はUVインテックス累年平均値グラフで見ると5月から9月が最も強いようです。お肌のダメージはなるべく最小限にしたいもの、UVクリームは勿論のこと帽子や日傘で紫外線を防止しましょう。

不妊と甲状腺のお話

甲状腺とは、喉ぼとけの下にある蝶のような形をした臓器のことです。健康な人の場合、手で触れてもわかりませんが、甲状腺の病気にかかると腫れて大きくなったり、硬くなったりと目立つようになります。甲状腺では甲状腺ホルモンが合成・分泌されています。

甲状腺ホルモンとは、成長や神経発達、エネルギー産生、糖タンパク・脂質代謝、循環器などへ作用し、生命を維持するのに欠かせない、男女問わず分泌されるホルモンのことです。

この甲状腺ホルモンが過剰に分泌される病気が「甲状腺機能亢進症」で、中でも代表的な病気は「バセドウ病」です。一方で、甲状腺ホルモンが不足してしまう病気が「甲状腺機能低下症」で、その中でも代表的な病気は「橋本病」です。

「バセドウ病」も「橋本病」も、本来自分の身体を守るはずの免疫が自身の細胞や組織を「異物」とみなして自己抗体を作ることで細胞や組織を攻撃してしまう「自己免疫疾患」といわれる病気の一つです。日本人女性の18%、つまり5人に1人が橋本病の自己抗体を持っているとの統計もありますが、大部分の人は無症状で治療を要する人はそのうちの1~2割です。

バセドウ病の自己抗体を持つ人は、日本では1000人に0.2~3.2人といわれています。この自己抗体の有無は血液検査を受けるとわかります。また、自覚症状がなくても治療が必要な場合もあります。

とくに、甲状腺機能亢進症も低下症も患ったまま妊娠すると、流産しやすくなるのが特徴です。また、甲状腺疾患では排卵異常も伴うため月経不順が起きやすく、それにより不妊症の原因のひとつになることがあります。

甲状腺機能低下症「橋本病」を放置すると脂質代謝に悪影響を及ぼし、動脈硬化を起こすことへとつながります。このほかにも、心臓の機能が低下してしまい、ひどい場合は心不全になる場合もあります。妊娠初期との関係は軽度であっても後々子供の知能の発育に影響するという研究発表もあります。排卵障害や流産、妊娠高血圧、胎盤早期剥離、低出生体重にも関係するという発表もあります。妊娠への甲状腺ホルモンの影響は、わが国ではまだあまり注目されませんが、世界的には重要視されつつあります。

お知らせ

4月21日から4週間のカウンセリング件数は、予約のカウンセリングが5件、診察に来られた際に必要に応じておこなった随時のカウンセリングが2件でした。